

新しい医師会館が開かれました。その落成記念式典・祝賀会の模様が冒頭で報告されています。設立に御苦労された執行部の先生方に感謝申し上げます。また宮城会長が述べられているように、長年資金を払っていただいた先輩の先生方のお陰も忘れてはならないと思います。

「平成20年全国勤務医部会連絡協議会」の報告が城間寛先生よりなされています。権丈教授の提唱する医療費の財源確保のための施策を実現するよう、世論に広く訴えたいものです。宮里善次先生から「日本医師会医師再就業支援事業保育システム相談員講習会」の報告がありますが、女性医師の確保のための早急の整備が望まれます。

「平成20年度沖縄県・沖縄県医師会連絡会議」が安里哲好先生から報告されておりますが、特定健診受診率が県全体で14.8%、那覇市で5.0%、沖縄市で4.1%しかないとの事、がん検診とともに受診率アップに向け、周知徹底が必要と思います。

野原薫先生から「平成20年度永年勤続医療従事者表彰式」の様子が報告されています。58施設から172名のコメディカルの方々が表彰されていますが、表彰された当事者は勿論ですが、永年勤続できるような環境を整えられた施設側にも敬意を表したいと思います。

さらにおめでたい事が報告されています。新垣元武先生が日本医師会最高優功賞、真栄城優夫先生が沖縄県功労章、金城國昭先生が瑞宝章を受けられています。御三名の先生方におかれましては誠におめでとうございます。今後とも変わらぬ御指導を賜りたいと存じます。

沖縄県は残念ながら、近年健康面でかなり後進ぶりが指摘されていますが、このような中、「特定健診について」の座談会が開かれています。昨年がスタートの年ですが、受診率の低さ、受診結果の知らせ方、保健指導の遅れ、保健請求制度の問題、利益の少ない費用問題等々、様々な課題が浮き彫りにされています。現在の14.8%を目標受診率65%にあげ、本来の目的達成にもっていくには、さらに多くの工夫・努力が必要のようです。

「第3回マスコミとの懇談会」は慢性腎臓病(CKD)について玉井修先生の司会で開催されています。沖縄の透析患者数は全国で6番目に多い、それはメタボリック症候群が多いためであるが、さらに検診受診率が低くCKDの発見が遅く、早期の治療介入ができていないため、との事を解説しています。マスコミにより県民に啓発してもらう上で大変有意義な懇談会であったと思います。

「生涯教育コーナー」では玉城正弘先生が「無症候性虚血性心疾患をCTで評価するー冠動脈石灰化指数を中心にー」について解説されています。繁用されている冠動脈造影CTに比し、被爆量が格段に少なく短時間で評価できる動脈石灰化指数(CACS)が早く保険収載される事が望まれます。

「プライマリ・ケアコーナー」で大田重人先生から「めまい診断」について解説いただいています。「めまい」は日常診療の中でよく遭遇する症候ですが、改めて勉強になりました。

アレルギー週間に因んで、外間英之先生と長谷川昌宏先生にそれぞれアレルギー性結膜炎とアレルギー性鼻炎について解りやすく説明して頂きました。両疾患が門外漢の小生には意外と(?)多い事を認識しました。

「若手コーナー」では、南部徳洲会病院の研修管理委員長・上江洲徹先生と研修医・松澤文彦先生からそれぞれの立場で寄稿いただきました。両先生ともコミュニケーション、教わる方の態度の重要性を述べていますが、全く同感です。

「発言席」で国立沖縄病院名誉院長の源河圭一郎先生が「純粹痴呆」について述べておられますが、痴呆といっても色々の病態がある事を認識しました。おっしゃる通り、周辺症状を生じることのない社会の再到来を願うところです。

新しい医師会館が落成しました。医療界がよりよくなるよう、また新しい気持ちで出発したいところです。

広報委員 久場 睦夫